

平成 29 年度 教員免許状更新講習 シラバス

講習 番号	4	講習名	【選択】国語科教育に活かす古典文学研究の成果（２）				
担当講師	開催地	時間数	主な受講対象者	受講人数	講習形式	試験方法	
西本 寮子	広島 キャンパス	6 時間	中学校・高等学校 国語科教諭	30 人	講義	筆記	
開催日	7 月 3 0 日（日）		予備日	8 月 1 0 日（木）			
【到達目標】 日本の古典文学について、中国文学との関係に基づき、その特質と展開を理解している。							
【講習の概要】 伝統的な言語文化の理解に重点を置く学習指導要領の特色を踏まえ、「日本における古典知の形成と展開」について考える。最新の研究成果を紹介しながら、日本文学における中国文学の摂取と定着、展開の様相を、『白氏文集』に焦点を当ててたどってゆく。具体的には『古今集』『竹取物語』『枕草子』『源氏物語』などからいくつかの事例を取り上げ、分析することを通じて、日本文学の特徴と受け継がれる古典知について考察を試みる。							
【講習の内容】 講義 1：王朝人の教養基盤（１）－「月」を見て「ものを思う」ことを起点として 平安時代の文学作品を読む際には漢詩文や和歌の知識が欠かせない。漢詩は暗誦され、そのまま取り入れられるだけでなく、和歌の世界にも物語文学にも取り込まれ、読者の想像力の幅を広げ、多様な享受の様相を見せた。この講義では、新しい息吹としての外来文化・文学の享受と摂取の様相を、『白氏文集』に焦点をあてて眺めてみたい。平安時代の知識人の教養の一端を探り、ひらがなの普及とともに広がりを見せた文学的想像力と創造力について、『竹取物語』『古今和歌集』を例として考える。							
講義 2：王朝人の教養基盤（２）－コミュニケーションを支える知識と応用 共有された知識と身につけた教養はどのように活用されたのか。『枕草子』を宮廷女房の記録と捉え、いくつかの章段を読み解くことにより、清少納言と男性知識人との会話から読み取れる、権力社会を生き抜く際に活用された教養と応用力について考える。							
講義 3：王朝人の教養基盤（３）－『源氏物語』が拓いた世界 『源氏物語』に認められる白詩摂取の方法は一樣ではない。共有される知識を利用して読み手の想像力をかき立て、ことばがもつ力によって新たな世界を切り拓いてゆく。『源氏物語』にみる物語創作の方法と卓越した創造力について、白詩が利用された場面を取り上げ、具体例に基づいて考える。							
講義 4：受け継がれる古典知－ことばが紡ぎだす世界の理解に向けて 『源氏物語』の達成はその後の知識人の教養のあり方に少なからぬ影響を与えた。つくり物語としての享受を越えて学問の対象となり、ジャンルを越え、文芸の世界に広く浸透していった。古典文学に対する理解を深めるための授業実践例の紹介を交え、『源氏物語』を例として、受け継がれてゆく古典知について考える。							
【備考】 ・試験の際には、講義で配布した資料、ノート、電子辞書を含む辞書の持ち込みを認めます。 ・講座 3 と合わせて受講することで、より理解が深まります。							